

2011年 九州大学の研究成果について

2011年、本学教員の多くの研究成果に関する論文が、海外の科学誌にて掲載されました。本学からプレスリリースをした33件を紹介します。(掲載日時順)

研究内容	教員（リリース時点）	掲載誌
受容体と結合した麻疹ウイルスの構造を世界で初めて解明	柳 雄介 医学研究院教授	Nature Structural & Molecular Biology
世界 2819 種の葉の強度を評価	小野田 雄介 理学研究院特任准教授	Ecology Letters
細胞内の不良品タンパク質を排除する酵素の構造と分子機構を解明	稲葉 謙次 生体防御医学研究所特任准教授	Molecular Cell
新しい発光原理に基づく有機EL用新規発光材料の開発に成功	安達 千波矢 最先端有機光エレクトロニクス研究センター教授	Applied Physics Letters
アルツハイマー病の新規治療薬：アポモルフィン	大八木 保政 医学研究院准教授	Annals of Neurology
腸内細菌がインフルエンザウイルスに対する粘膜免疫応答をサポートする	一戸 猛志 医学研究院助教	米国科学アカデミー紀要
心血管病の原因となる受容体発現を低下させる機構を解明	黒瀬 等 薬学研究院教授	米国科学アカデミー紀要
ショウジョウバエは糖の栄養価を判断し学習することができる	谷村 禎一 理学研究院准教授	Current Biology
小さなRNA分子による生殖細胞遺伝子のプログラミング機構を発見	佐々木 裕之 生体防御医学研究所主幹教授	Science
ブラシ状高分子を用いた環境に優しい接着の自在制御に成功	高原 淳 先端物質化学研究所主幹教授	Soft Matter
人工触媒を用いた不斉エステル加水分解反応に初めて成功	徳永 信 理学研究院教授	Chemistry-A European Journal
光駆動型の人工酵素の開発に成功 ビタミンB12と光捕集機能を持つルテニウム金属錯体を高分子上で複合化	久枝 良雄 工学研究院教授	Chemical Communications
ほとんどのヒト癌で異常に増加している腫瘍促進タンパクの発見	高橋 淳 九大病院講師	Scientific Reports
ビタミンB12の新機能発見 光エネルギーを利用した人工酵素化へ大きく加速	久枝 良雄 工学研究院教授	Chemical Communications
肝臓の再生に必要な肝細胞の増殖活性化機構の解明	鈴木 淳史 生体防御医学研究所准教授	米国科学アカデミー紀要
花粉症・アレルギーの発症因子の立体構造を世界で初めて解明	白石 充典 薬学研究院助教	Nature
マウスの皮膚細胞から肝細胞を直接作製する方法の開発に成功	鈴木 淳史 生体防御医学研究所准教授	Nature
がん抑制遺伝子 p53 を制御する新しい分子の発見	鈴木 聡 生体防御医学研究所教授	Nature Medicine
脊椎動物未受精卵の分裂停止の分子機構を解明	佐方 功幸 理学研究院教授	Developmental Cell
がん幹細胞モデルの臨床的重要性について解明	竹中 克斗 医学研究院助教	Nature Medicine
造血幹細胞の新たな維持機構を解明	中山 敬一 生体防御医学研究所主幹教授	Cell Stem Cell
生体内の鉄の量を調節するたんぱく質の機能を解明	中山 敬一 生体防御医学研究所主幹教授	Cell Metabolism
分子触媒を用いた燃料電池を開発	小江 誠司 工学研究院教授	Angewandte Chemie International Edition
青、緑、赤の蛍光を発する超高性能蛍光性カルシウムイオンセンサータンパク質の開発に成功	石原 健 理学研究院教授	Science
麻疹ウイルスがマウスで効率良く増殖するための画期的なシステムの構築に成功	柳 雄介 医学研究院教授	米国科学アカデミー紀要
加齢黄斑変性の発症に関わる遺伝子を発見	石橋 達朗 医学研究院教授	Nature Genetics
大脳一次視覚野の機能構築に関する新説	岡本 剛 医学研究院准教授	Scientific Reports
アゲハチョウが植物を味で見分けて産卵する仕組みを解明	谷村 禎一 理学研究院准教授	Nature Communications
クリプトコッカス症原因菌の糖脂質代謝、糖脂質品質管理機構の解明	伊東 信 農学研究院教授	Journal of Biological Chemistry
S体ケタミンの神経障害性疼痛に対する鎮痛作用における新たな標的分子を特定	中西 博 歯学研究院教授	Journal of Neuroscience
基本味に対して顔の皮膚血流が特異的に応答することを発見	林 直亨 健康科学センター准教授	PLoS ONE
安価なプラスチック抗体で血液中の毒素の無害化に成功	星野 友 工学研究院助教	米国科学アカデミー紀要
“D-アミノ酸”の分析技術を神経難病の解明に応用	浜瀬 健司 薬学研究院准教授	米国科学アカデミー紀要